

小 売 業 54 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景 況

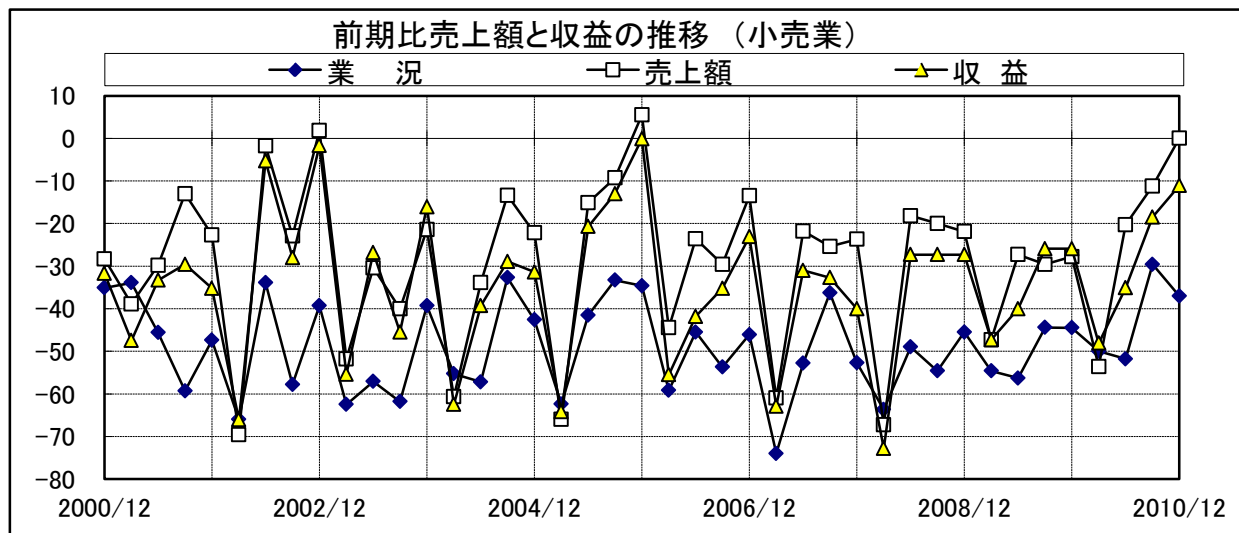
DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
業 況	-51.8	-29.6	-37.0	-57.4
売上額	-20.3	-11.2	0.0	-38.8
収益	-35.1	-18.5	-11.1	-40.7

今期の業況判断DIは△37.0 と、前期比マイナス幅が拡大し 7.4 ポイント低下した。

地区別にみると、浦河、静内、三石、広尾地区が横ばいで、様似、えりも地区で悪化している。業況が改善した地区は見当たらなかった。

売上額、収益判断DIは、売上額が 0.0 と、前期比マイナス幅が縮小し 11.2 ポイント上昇

同じく収益は 7.4% 上昇した。

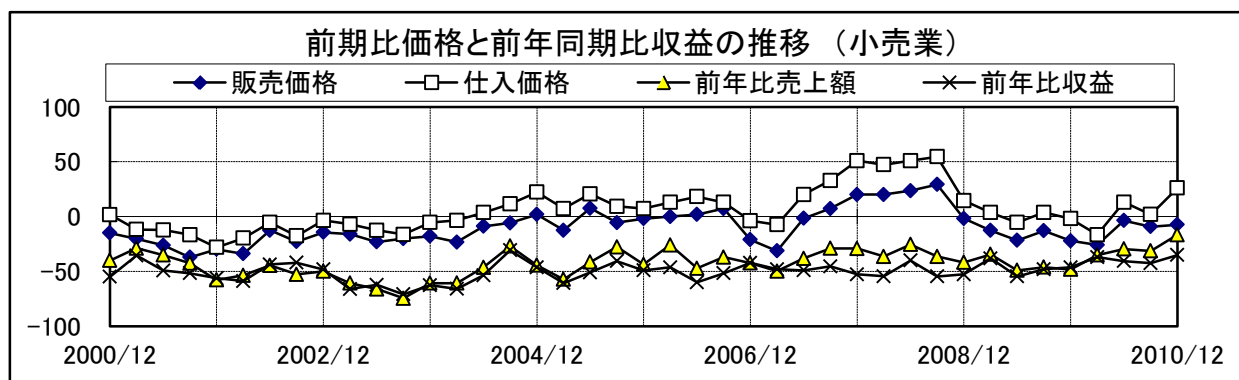


□ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
販売価格	-3.7	-9.2	-7.4	-9.3
仕入価格	13.0	1.8	26.0	16.6

販売価格判断DI(△7.4)は、前期比マイナス値が縮小し 1.8 ポイント上昇、価格低下基調を弱めている。仕入価格判断DI(26.0)は、前期比 24.2 ポイント上昇、価格上昇基調を強めている。業種別にみると、衣料品は販売・仕入価格で上昇基調にあり、食料品では、販売

価格が上昇から低下基調へ転じ、仕入価格は上昇基調を弱めている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
残業時間	-13.0	-9.3	-1.9	-11.1
人手状況	13.0	5.6	-3.6	5.6

残業時間判断DIは△1.9 と、残業時間が減少したとする企業割合が減った。

人手過不足判断DIは△3.6 と、前期比プラスからマイナス値に転じ 9.2 ポイント低下、人手「不足」超となっている。

□ 設備投資の動き

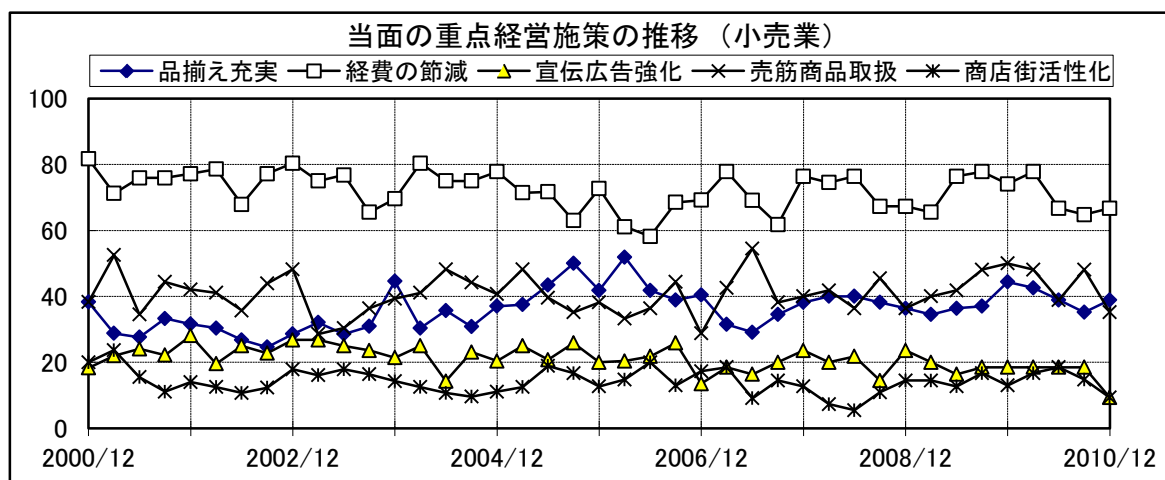
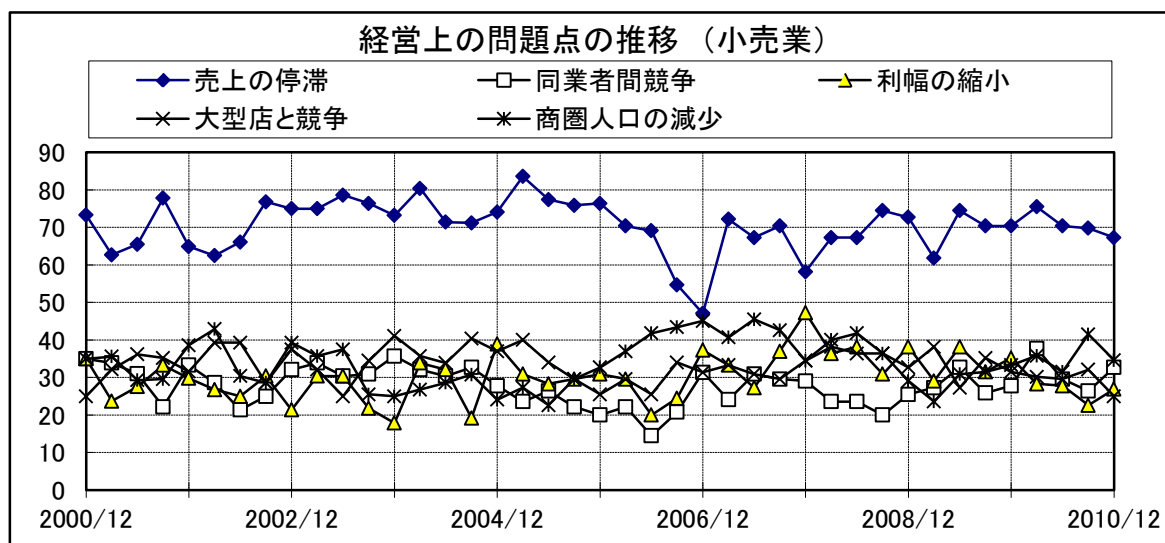
設備投資の充足感を示すD Iは△14.8と、前期（△12.9）からマイナス値が拡大し1.9ポイント低下、不足感が強まり、適正と回答した企業は81.4%と、前期（75.9%）から5.5ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は13.0%と、前期（9.3%）比3.7ポイント上昇、件数で前期の5社に対し実施7社となった。また、来期予定は4社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」67.3%をトップに挙げ、次いで「商圈人口の減少」34.6%、「同業者との競合」32.7%、「利幅の縮小」26.9%、「大型店との競合」25.0%の順に続く。

重点経営施策では、「経費の節減」66.7%をトップに挙げ、次いで、「品揃えを改善する」38.9%、「売れ筋商品取扱い」35.2%、「仕入先の開拓選別」16.7%の順となっている。他には「新規事業を始める」9.3%、「宣伝広告を強化」9.3%等があげられている。



□ 来期の見通し

来期（平成23年1～3月期）の予想業況判断D Iは△57.4と、今期（△37.0）実績比20.4ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D Iは、今期実績比売上額が△38.8（今期0.0）、収益が△40.7（今期△11.1）と、それぞれマイナス値が拡大し38.8、29.6ポイントの低下見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D Iは、今期実績比販売価格が△9.3（今期△7.4）とマイナス幅が拡大し1.9ポイント低下、価格低下基調が強まる見通しとなっている。一方仕入価格は16.6（今期26.0）と、プラス幅が9.4ポイント低下、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

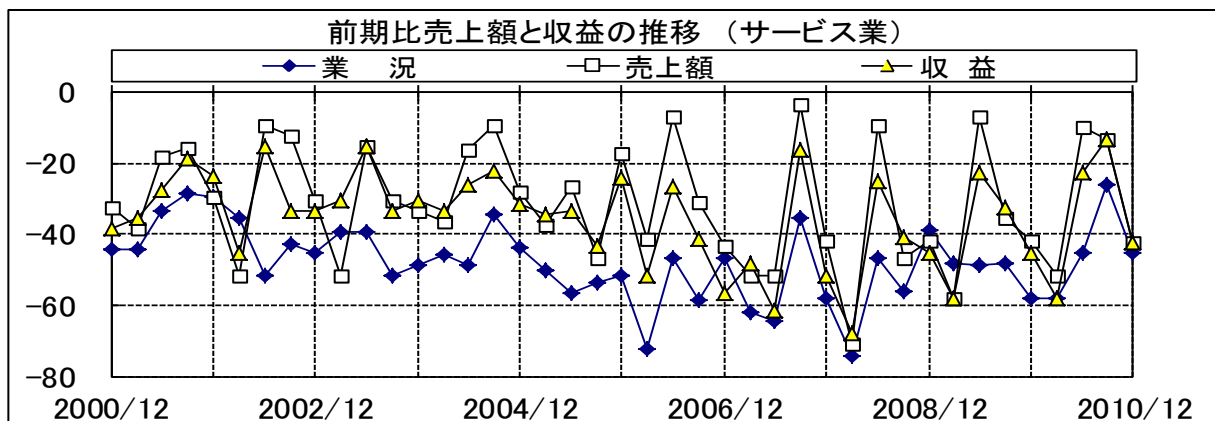
サービス業 31 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概 況

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
業 況	-45.1	-25.8	-45.2	-54.8
売上額	-9.7	-12.9	-42.0	-64.5
収 益	-22.6	-12.9	-42.0	-67.8

今期の業況判断DIは△45.2 と、前期比マイナス幅が拡大し 19.4 ポイント低下、業況は悪化している。地区別にみると、改善と見られる地区はなく、三石、様似、えりも地区で横ばい、浦河、静内、広尾地区で悪化している。売上額、収益判断DIは、前期比売上額、収益ともに△42.0 と、マイナス幅が拡大し、

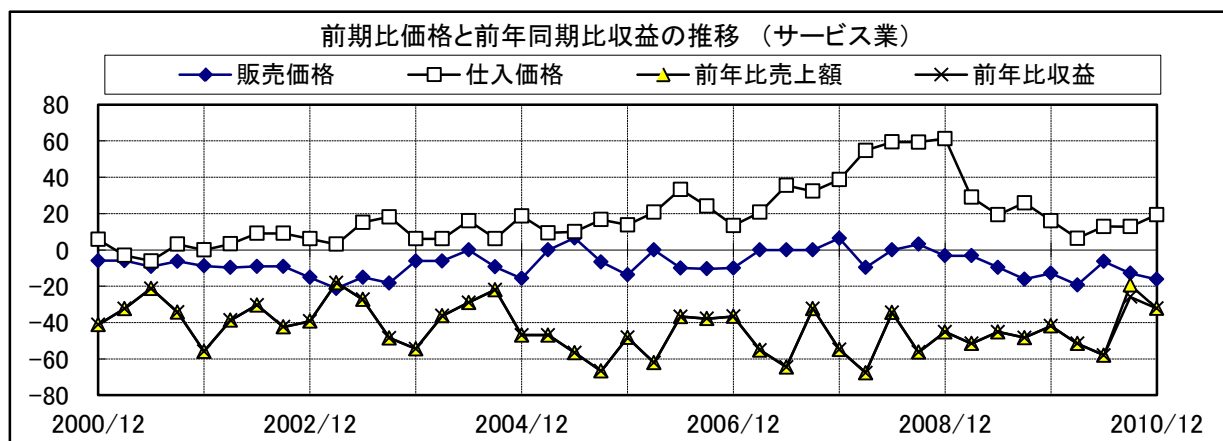
29.1 ポイント低下した。



□ 価格面の動きと前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
料金価格	-6.4	-12.9	-16.2	-16.2
材料価格	12.9	12.8	19.4	12.9

料金価格判断DI(△16.2)は、前期比マイナス幅が縮小し 3.3 ポイント低下、価格低下基調を強めている。一方、材料価格判断DI(19.4)は、前期比プラス幅が拡大し 6.6 ポイント上昇、価格上昇基調を強めている。業種別にみると、旅館が料金、材料で横ばい。洗濯理美容が料金、材料で低下基調。自動車整備では料金で低下基調が弱まり、材料は低下基調にある。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
残業時間	-25.8	-13.0	-16.1	-22.6
人手状況	3.2	-9.7	3.2	0.0

残業時間判断DIは△16.1 と、残業時間が減少したとする企業割合が増え、前期比 3.1 ポイント低下した。

人手過不足判断DIは 3.2 と、前期比マイナスからプラス値に転じ 12.9 ポイント上昇、人手「不足」超から人手「過剰」超に転じている。

□ 設備投資の動き

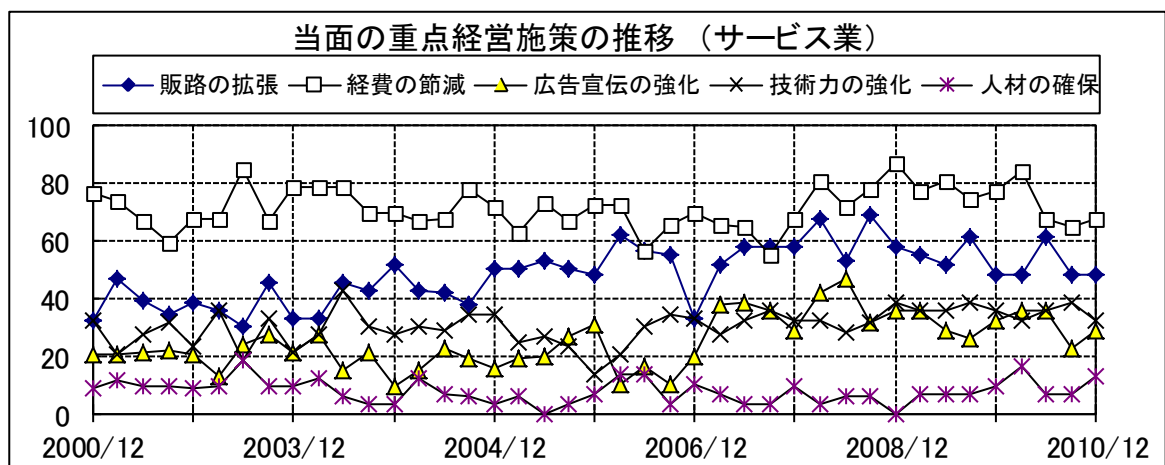
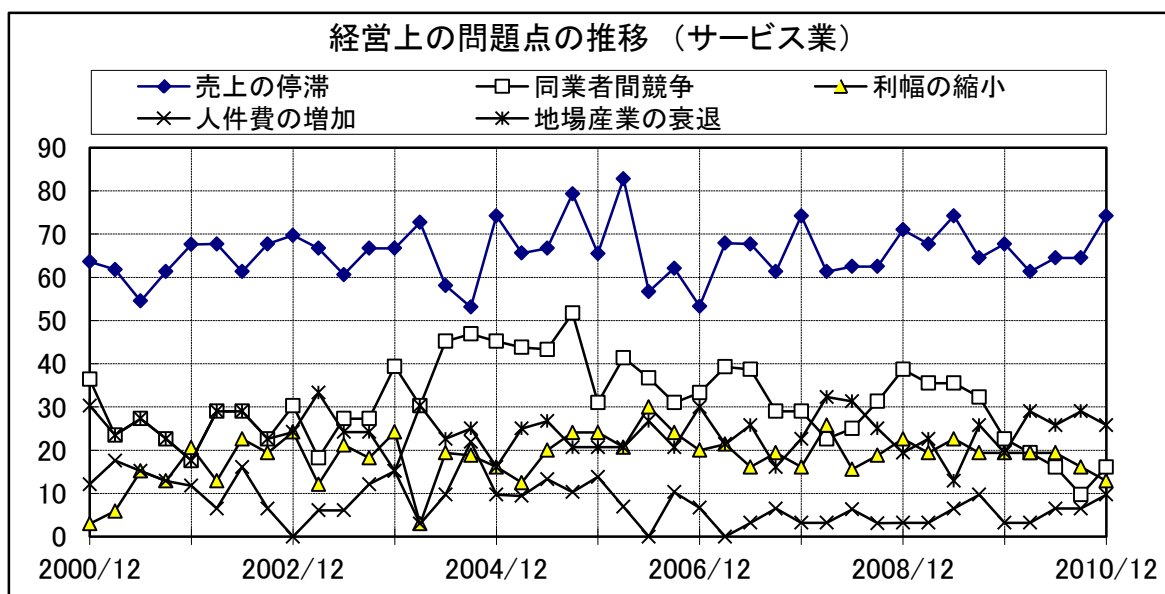
設備投資の充足感を示すD Iは $\Delta 9.6$ と、前期($\Delta 22.6$)から不足感を弱めマイナス幅が13.0ポイント縮小した。また現在の設備状況が、適正と回答した企業は、77.4%と、前期(71.0%)から6.4ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は22.6%と、前期(12.9%)比9.7ポイント上昇。来期予定では、今期の7社に対し4社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」74.2%をトップに挙げ、次いで「商圏人口の減少」45.2%、「地場産業の衰退」25.8%、「同業者間との競合」16.1%、「取引先の減少」16.1%、「利幅の縮小」12.9%、「料金値下げの要請」12.9%、の順に続く。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ67.7%、次いで「販路を広げる」48.4%、「技術力を強化する」32.3%、「宣伝広告の強化」29.0%の順となっている。この他に「教育訓練を強化」12.9%、「人材を確保する」12.9%等があげられている。



□ 来期の見通し

来期（平成22年1～3月期）の予想業況判断D Iは $\Delta 54.8$ と、今期($\Delta 45.2$)実績比9.6ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D Iは、売上額が $\Delta 64.5$ (今期 $\Delta 42.0$)と、今期実績比マイナス幅が拡大し22.5ポイント低下、収益が $\Delta 67.8$ (今期 $\Delta 42.0$)と、今期実績比25.8ポイントの悪化見通しとなっている。

予想料金、予想材料価格判断D Iは、今期実績比料金価格が $\Delta 16.2$ (今期 $\Delta 16.2$)と価格低下基調は横ばい。一方、材料価格は12.9(今期19.4)と、プラス幅が縮小し6.5ポイント低下、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。